目　次

第Ⅰ部　第７期計画の報告

第１章　広報活動（日本文化の発信）　…　８
１.一般広報活動
２.提案受託型広報活動－歴史街道「企業研修プログラム」の推進
３.地域文化連携（次世代育成型）広報活動－歴史街道「教育プログラム」の推進
４.個人会員のネットワークづくり－「歴史街道倶楽部」の推進

第２章　歴史文化を活かした余暇づくり　…　２４

第３章　歴史文化を活かした地域づくり　…　３３

第４章　協議会運営　…　３７

第Ⅱ部　第８期計画

第１章　基本方向　…　４０

第２章　事業戦略　…　４３

第３章　事業計画　…　４６
１.地域事業
２.理念普及事業
３.広報事業

第４章　協議会運営　…　５９

参考資料　…　６１

第Ⅰ部　第７期計画の報告

（平成２４年度～平成２６年度）

第１章　広報活動（日本文化の発信）

（事業目的）

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求、歴史街道ブランドの強化、歴史街道ファン層の拡大および地域の歴史文化情報の発信を総合的に行うため、広報の充実を図る。

１．一般広報活動

（事業項目）

（１）マス媒体への戦略的情報発信

積極的なプレスリリースをベースに、各種媒体との宣伝タイアップ活動、人的ネットワークの構築に注力し、情報発信力の強化に努めた。

また、会員各団体の一般向け媒体等との連動を積極的に行っている。

① プレスリリース（第６期１９件→第７期６１件）

・同情報を逐次個別記者へメールにて配信（約２６０名）

② 新規媒体の展開

・ＷＥＢ連載「あすたいむ倶楽部」開始

（エルネット社／平成２７年１月から隔週連載）

・月刊「経団連」での特集

・「生涯教育新聞」での特集記事掲載

③ マスコミ関係者への定期的な情報発信

・ＴＯＰＩＣＳ、プレスリリース情報等協議会の事業紹介のほか、歴史街道倶楽部会員誌「歴史の旅人」、イベント情報のほか、スタンプラリー、教育プログラム等各種事業紹介などを送付（約５００件、年８回）。

（２）宣伝タイアップ活動の展開

会員団体等の関係先の一般向け媒体に協力いただき、広報活動を積極的に実施した。

① 朝日放送「歴史街道スペシャル」（年２回３０分番組）

② CATV 各社「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化」（月２回更新）

③ ＰＨＰ研究所「歴史街道」（毎月／紀行文２P＋広告１P）

④ 近鉄ニュース「歴史街道人間往来」、「あみま倶楽部掲示板」（毎月）

⑤ 阪急沿線紙ＴＯＫＫ「歴史街道」（毎月）

⑥ 京阪沿線紙Ｋ Press「京阪沿線の名橋を渡る」
⑦ 阪神高速道路キャンペーンチラシ内「車で行く『歴史街道』の旅」（年３回）
⑧ ウェッジ社「ひととき」（不定期）
⑨ ＪＲ西日本「ふれあいハイキングだより」（年２回）
⑩ ＪＡＦ「JAF－Mate　プラス」で連携事業の実施・掲載（年２回）
⑪ ＪＡＦ／阪神高速のＷＥＢサイトでの掲載
⑫ 朝日放送ラジオ「関西文化の日」インフォマーシャルの実施
⑬ その他、各社の沿線紙、ポスター等で歴史街道マークの掲出（随時）

（３）マスコミとのネットワーク構築
① 歴史街道の事業への記者招待（複数回／年）
「一筆書でたどる歴史街道の旅」、「教育プログラム」等
② 関西情報交換会の開催（年１回）
③ 関係団体主催の会合への出席
三重県観光情報提供会、関西プレスクラブ、奈良県観光見本市等
④ 記者への記事企画提案（随時）
産経新聞、日経新聞等との連携企画が実現

（１）から（３）を通じ、メディアでの露出を増やした。

（４）イベント広報の実施
一般の方に歴史文化に触れる楽しみを知っていただけるイベント型広報を他団体と連携して実施。歴史街道ファンの拡大とメディアへの露出拡大に努めた。
① 講演会、セミナー等
＜大阪＞
・平成２４年度　関西経済連合会等協力の講演会（テーマ：伊勢）
近畿日本鉄道協力の講演会（テーマ：吉野・飛鳥）
万葉文化館、近鉄文化サロン連携セミナー（３回）
・平成２５年度　関西経済連合会等協力の講演会（テーマ：和食と関西）
大阪府立中央図書館との講演会（テーマ：大阪の近代建築）
・平成２６年度　関西広域連合、関西経済連合会等協力の講演会
（テーマ：関西の世界遺産）
大阪府立中央図書館との講演会（テーマ：大坂の陣）
紀伊山地三霊場会議等協力の講演会
（テーマ：紀伊山地の霊場）
堺市栂文化会館連携セミナー＆ウォーク（３回）
土木学会全国大会でのシンポジウム出演

＜東京＞

・平成２４年度　ＪＲ東海、関西経済連合会等協力の講演会（テーマ：伊勢と熊野）
産経学園連携セミナー（２回）

・平成２５年度　ＪＲ東海、関経連等協力の講演会（テーマ：和食と関西）
産経学園連携セミナー（２回）

・平成２６年度　ＪＲ東海、関経連等協力の講演会（テーマ：京のおもてなし）

② 展示、ＰＲ活動

・平成２４年度　クラブツーリズム奈良旅行センター、
橿原ナビプラザ、近鉄阿部野橋駅、近鉄百貨店

・平成２５年度　「食の博覧会２０１４」、大阪府立図書館
宇治「親子で楽しむ宇治茶の日」、
名古屋「旅まつり２０１４」
サイクルモード（大阪、東京）、道の駅（滋賀県）

・平成２６年度　橿原ナビプラザ
大阪府立中央図書館
けいはんなプラザ
阪神高速ミナミ交流プラザ
南都銀行ファミリーフェスティバル
宇治「親子で楽しむ宇治茶の日」
名古屋「旅まつり２０１５」
「関西ワールドマスターズゲームズ 2021 準備委員会」
関西国際空港「タイムトラベルＫＡＮＳＡＩ」

（５）海外広報活動の強化

外国人に対し、日本の歴史文化の理解促進、関西の魅力をアピールする活動。

① 歴史街道コンセプト紹介動画の作成（日・英）
② Youtube 動画「旅の星」シリーズ２４本作成（日・英、一部中韓字幕付き）
③ 外国語ホームページの全面改良（韓国語、中国語）
④ 東通企画と協力し、インドネシアでの１時間番組の放映（総務省コンペ採択）
⑤ 関西広域連合と協力し、関西の世界遺産を中心にしたリーフレット制作（日英）
⑥ 外部団体との積極的な相互リンク（関西文化.com、関西地域振興財団等）
⑦ 関西の歴史文化遺産をめぐるモデルコースを提案するホームページの制作（日英）
⑧ 関西訪問の外国人記者、イラク国会議員等に対するプレゼンテーション実施
⑨ ＪＩＣＡ等で訪日の外国人に対する広報
⑩ 関西領事館フォーラム等外部団体主催事業への企画・運営協力
⑪ 東梅田駅などで、定期的に歴史街道各地の外国語リーフレットの配架

（６）広報ツールの充実

ホームページ、ポスター、ステッカーなど、広報ツールの拡充に努めた。

① ホームページの改訂、内容充実

② 動画の充実

・歴史街道コンセプト紹介動画の作成

・Youtube 動画「旅の星」シリーズ開始（２４本）

・朝日放送「歴史街道」動画の多様なメディアへの対応

③ Facebook 開始（いいね！　５，３００件）

④ メールマガジン「月刊　Ｄｏ楽」の充実、強化（７，７００件）

⑤ ＥＣＣコンピュータ専門学校と連携したポスターの制作

⑥ スタンプラリーキャラクターを使ったステッカーの制作

（７）会員団体との連携広報の実施

会員団体の従業員等、関係者に対し協議会の活動や事業･歴史街道各地の魅力を伝える。

① 中央省庁の関係者に向け、協議会の理念・活動紹介を送付

② 協議会担当者向けメールマガジン「歴史街道なう」で協議会の活動状況を報告（毎月第４木曜）。

③ 関西経済連合会会報誌「経済人」における広告（不定期）

④ パナソニック、大阪ガスにおける社内イントラネットでの定期的な情報発信および、ダイキン、近畿日本ツーリスト等のイントラネットでの不定期での情報発信。

⑤ 近鉄グループニュースにおける連載（平成２４年度～平成２６年度）

⑥ 近鉄社内報「ひかり」での連載（平成２４年度、平成２５年度）

⑦ その他、実施自治体の広報誌等での協議会事業告知協力

朝日放送「歴史街道ロマンへの扉」

ＣＡＴＶリレー番組

Youtube での配信「旅の星」

月刊歴史街道（PHP 研究所）

JR 西日本

阪急沿線紙

近鉄ニュース

講演会の開催

関西広域連合との連携

イベントへの出展

展示 PR

PR ツールの作成

スタンプラリーの実施

関連団体との連携事業

２．提案受託型広報活動－歴史街道「企業研修プログラム」の推進

（事業目的・方針）

平成２２年度からスタートした本プログラムは、平成２５年度からの三箇年を本事業の重点強化期間と位置づけ、コンテンツ整備、企業・研修団体における標準プログラム化、一層の認知度拡大と定常運営体制の確立を推進した。本事業のねらいは歴史街道計画の理念を具体化し日本の国際競争力を強化することである。グローバル人材育成に向け企業研修プログラムを協議会の中核を担う事業へと育成すべく、第７期計画に示した事業方針に沿って、コンテンツ・ＰＲ・体制の整備・拡充に取り組んできた。

（事業項目）

（１）日本文化の本質を解説するコンテンツの充実

① 現地視察コースの拡充、ガイド資料整備

② 国・地域、業態や研修目的に応じ、コンテンツを開発

（２）企業・団体における研修プログラムへの組み込み提案力を強化

講義コンテンツ、視察コースの拡充をベースに対応力を上げ、企業・団体の研修における「日本文化体感プログラム」の標準化を目指した。

① ＪＩＣＡ、ＰＲＥＸ等との研修連携の継続（三箇年で８５本受託）

② 会員企業へのアプローチ：竹中工務店、松下幸之助記念財団（パナソニック）、岩谷産業、大林組など。

③ 研修事業者の開拓：近畿建設協会、都市技術センター、比較法研究センター、神戸国際協力交流センター、サイバー適塾、立命館大学、デベックスなど。

④ 会員向けプログラム体験会の実施（平成２５年度、平成２６年度）：パナソニック、大広、日本政策投資銀行、京阪、関西経済同友会、など。

⑤ 展開地域の拡大：各地の協力を得て体感プログラム現地コースの拡充を図った。

（３）「日本文化体感プログラム」の認知拡大

産官学における認知度を上げ､歴史街道ブランド強化に貢献できるレベルを目指した。

① 講演、講義、セミナー：和歌山大学、甲南女子大学、大阪大学、帝塚山大学、帝塚山学院大学、泉州キワニスクラブ、ネール大学など。

② 経済団体との連携

・経済団体（関西経済連合会）等の会員向け発信（平成２５年度、平成２６年度）

・平成２５年度には、「月刊 経団連」に『グローバル化のなかで日本文化・精神をいかに継承していくか―伊勢神宮式年遷宮に込めた思いと歴史街道の今日的意義』を掲載。

・平成２６年度には、日本経済団体連合会 産業問題委員会で講演し、同委員会は

「国家ブランドの構築に向けた提言」としてとりまとめ総理・与党首脳に建議。

③ ＰＲ媒体の活用：「日本文化体感プログラム」パンフレットの活用

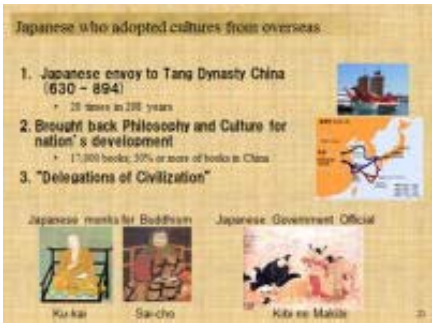
（４）サポート体制の整備

① 会員企業・団体、地域ボランティアガイド等の協力体制整備を行った。

② ガイドのレベル維持に向けた通訳案内士の開拓を行った。

日本文化体感プログラム（対象：ビジネスパーソン）	参加国（延）	研修（JICA、企業等）		講演・講義（大学、商工会議所等）		
		実施回数	参加者	実施回数	参加者	
平成２２年度	23 ヵ国	7 回	112 名	3 回	120 名	
平成２３年度	68 ヵ国	16 回	211 名	6 回	232 名	
平成２４年度	112 ヵ国	22 回	248 名	8 回	511 名	
平成２５年度	193 ヵ国	31 回	357 名	5 回	308 名	
平成２６年度	201 ヵ国	35 回	592 名	5 回	364 名	
累計	597 ヵ国	111 回	1520 名	27 回	1535 名	3,055 名

コンテンツの充実・英語パンフレット



講義テキスト

講義・日本文化について

伝統文化体験

企業博物館見学

大学での講義

企業での講義

新入社員研修

経済界への広報活動

３．地域文化連携（次世代育成型）広報活動－歴史街道「教育プログラム」の推進

（事業目的・方針）

平成２２年度からスタートした本プログラムは、平成２５年度からの三箇年を本事業の重点強化期間と位置づけ、時代ゾーンと地域展開、四季を通じた「体験型歴史・文化学習プログラム」の提供を目指し、歴史街道版教育プログラムの体系づくりに努めてきた。
そして、歴史街道計画の発信力を高め、持続成長可能な取り組みにしていくためには、次世代育成に向けた歴史・文化の体験型教育プログラムの開発が不可欠である。教育関係者や企業・団体における本事業の意義と社会的役割の認識を深め、第７期計画ではさらに時代区分や地域的なバランスのとれた多様なプログラムを提案し実行する力を高めてきた。

（事業項目）

（１）教育プログラム体系の構築

古代から近代に至る時代ゾーンとターゲット（「小学生＋親」「中高校生」「大学生（社会人含む）」）のマトリクスを組みテーマ素材の発掘・検証を行っている。

① 時代ゾーン、ターゲット層、テーマ素材の検討
② 実施企画の検証と活用、年間サイクルの確立
③ プログラム強化・定番化
④ 平成２６年度実施事例：石～木～鉄の文化の変遷を学ぶプログラム展開
- ５月２５日　奈良教育大学公開講座「食べ物でめぐる奈良の魅力発見」２７名
- ６月　８日　「飛鳥の石はナゾがいっぱい」テーマ「石」（新）４１名
- ７月２７日　「家族 DE 文楽Ⅱ」４６名
- ８月２４日　「神戸･洋菓子物語Ⅱ」２１名
- １０月５日　京都文教大学共催「宇治茶レンジャー」展示
- １１月９日　「堺「てつ」の町堺の秘密を探れⅣ」４９名
- １２月６日　「家族でつくる正月準備Ⅱ」２９名
- ２月２２日　「大阪城のナゾとフシギに挑戦Ⅲ」５０名
- ３月２２日　「古代建築の謎を探れⅣ」「木」　５３名

（２）教育界、会員企業・団体とのネットワークづくり

大学や企業団体と連携し継続して実施するプログラム、および新規に実施するプログラムをベースに教育的コンテンツや伝え方を学び､協議会のブランド強化を図ってきた。

① 歴史街道版「教育プログラム」教材の開発検討
- 「飛鳥の石」「食べ物で見つける奈良の魅力」「洋菓子の歴史」「いかるがの工人たち」

② 奈良教育大学等との共同企画開発の推進

（３）歴史街道版「教育プログラム」の認知度拡大

① 教育プログラムパンフレットの活用

② ホームページの整備

・「日本文化体感プログラム」のコーナーに教育プログラムのバナーを展開

（４）推進体制の整備

（例）　平成２６年度の実施事例

平成２６年度　教育プログラム体系（時代×地域×四季）の構築				
	１Q	２Q	３Q	４Q
	春	夏	秋	冬
古代史 ゾーン	●平成 26 年 5 月 25 日 奈良教育大学公開講座 （6 回目）		●平成 26 年 11 月 9 日 「てつ」の町堺の 秘密を探れ （4 回目）	
奈良時代 ゾーン	●平成 26 年 6 月 8 日 飛鳥の「石」はナゾがいっぱい （初回）			●平成 27 年 3 月 22 日 「木」 古代建築の謎(法隆寺) （竹中工務店・竹中大工道具館） （4 回目）
平安～室町時代 ゾーン			●平成 26 年 10 月 5 日 京都文教大学 宇治茶レンジャー （展示）（4 回目）	
戦国～江戸 時代 ゾーン		●平成 26 年 7 月 27 日 家族 DE 文楽（2 回目）		●平成 27 年 2 月 22 日 大阪城の なぞとフシギに挑戦 （3 回目）
近代 ゾーン		●平成 26 年 8 月 24 日 神戸洋菓子物語（2 回目）	●平成 26 年 12 月 6 日 家族でつくる 正月準備（2 回目）	

日本文化体感プログラム（教育） （対象：小中高生・親）	実施回数	参加者（親子）
平成２２年度	3 回	90 名
平成２３年度	6 回	169 名
平成２４年度	4 回	202 名
平成２５年度	8 回	279 名
平成２６年度	9 回	316 名
合計	30 回	1,056 名

ＰＲ用のパンフレットの作成・配布

斑鳩：古代建築の謎を探る

堺で鉄の秘密を探る

大阪ガスクッキングスクールとの共催

伝統芸能鑑賞

奈良教育大学との共催

飛鳥で石のナゾを探る

大阪城の謎とフシギに挑戦！

４．個人会員のネットワークづくりー「歴史街道倶楽部」の推進

（事業目的・方針）

平成６年の発足以来、歴史街道計画推進のための検証機能を果たし、歴史街道計画の個人応援団づくりを基本の考え方とし、より多角的な会員サービスの充実、新会員獲得に向けた活動を強化した。第７期計画については、ウォーク、バスツアー、伝統芸能鑑賞、歴史講演会に加え、第６期計画から始めた「東京セミナー」「お江戸ミニウォーク」「五感で体感！にほん文化シリーズ」を充実させた。平成２４年度３７回、平成２５年度３４回、平成２６年度３１回のイベントを実施。定員を上回るイベントもあり、自治体の協力も得られ、「歴史街道」ならではの内容として好評を得た。また、平成２６年度は歴史街道倶楽部発足２０周年にあたり、記念イベントを実施するとともに、より広くアピールしてきた。

さらに、新規会員獲得をめざし、「入会金無料キャンペーン」「家族会員無料キャンペーン」「自動引き落としキャンペーン」「お友だち紹介キャンペーン」を実施した。

第７期計画における活動のポイントは以下の３点である。

・新規サービス開発（学び・役立ち・交流・生き甲斐づくり）
・歴史街道倶楽部会員の拡大（幅広い年齢層・居住地域の新規会員を獲得、既存会員の維持）
・歴史街道倶楽部発足２０周年記念事業の実施

（事業項目）

（１）戦略機能強化

① 歴史街道計画推進に貢献する歴史街道倶楽部の運営
② 新企画の検証機能発揮、協議会施策との連動（一筆書ツアーなど）
③ 新しい楽しみ方開発、ストーリーの検証（一筆書ツアーなど）
④ 歴史街道倶楽部２０周年企画「２０周年記念会員交流会」を実施（平成２６年度）
⑤ 首都圏企画の開発
・奈良まほろば館との連携による「東京セミナー」の実施(年１回)
・お江戸ミニウォークの実施(年１～２回)

（２）新サービスの開発

団塊シニア、女性層・親子（子ども）の開拓

① ターゲット開発企画の拡充

３０～４０代の女性層を対象にした「五感で体感！にほん文化シリーズ」(近鉄文化サロン共催)を充実させた。セミナーと現地体験の２回セットを基本とし、平成２６年度は新たに１day コースも設けた。

平成２４年度：Vol.5～10　平成２５年度：Vol.11～15
平成２６年度：Vol.16～20

ビジネスパーソン向け歴史セミナーの実施

・大阪商工会議所と連携し、“なにはなんでも大阪検定”連携事業「大阪まなぼ～東洋のマンハッタン“中之島”を学ぶ～を実施。１４８名(平成２５年度)

② 既存会員向けイベントの充実

「歴史のまちウォーク」などウォーク、バスツアー、伝統芸能鑑賞会、歴史講演会に加え、首都圏におけるイベントの充実を図った。

(a)歴史街道倶楽部発足２０周年記念企画（平成２６年度）

・歩いてたどる歴史街道の旅（第１弾～第４弾）
・新緑の世界遺産白川郷と五箇山の集落を訪ねて
・歴史街道倶楽部発足２０周年記念会員交流会

(b)歴史のまちウォーク

・平成２４年度：８回（八幡市、田辺市・新宮市・那智勝浦町、小浜市、河内長野市、天川村、京都市、伊勢市・亀山市、茨木市など）
・平成２５年度：５回（京都市、朝来市、奈良市、竹内街道など）
・平成２６年度：７回（三木市・姫路市、京都市、紀北町・熊野市・新宮市・那智勝浦町・田辺市、大津市、生駒市、大阪市など）

(c)伝統芸能鑑賞

・平成２４年度：２回（落語、文楽）
・平成２５年度：２回（歌舞伎、文楽）
・平成２６年：１回（文楽）

(d)歴史講演会「歴史街道ロマン語り部の旅」

・平成２４年度：６回（彦根市、伊勢市、堺市など）
・平成２５年度：６回（神戸市、近江八幡市、姫路市、三木市など）
・平成２６年度：４回（長岡京市など）

(e)海外特別企画

・平成２４年度：ミャンマー（ＪＴＢ）
・平成２５年度：スリランカ（近畿日本ツーリスト）
・平成２６年度：エストニア、ラトヴィア、ロシア（日本旅行）

(f)歴史・文化セミナー(近鉄文化サロン主催・近畿文化会協力)

宗教、哲学、歴史、文学、美術、建築など各分野からの専門家を招き、講師ならではの視点から特徴のある講義内容で毎月実施

・平成２４年度：１２回
・平成２５年度：１２回
・平成２６年度：１２回

(g)気軽に参加可能な「おためし企画」の実施

・平成２４年度：４回（大和郡山市、京都市、彦根市、大阪市）

・平成２５年度：４回（箕面市、京都市、羽曳野市・藤井寺市、奈良市）

・平成２６年度：４回（津市・御杖村、桜井市・宇陀市、明日香村・橿原市、生駒市）

(h)健康プログラム開発の推進

厚生労働省、経済産業省、総務省ほかが進める「どこでもMY病院」構想について、平成２４年度の実証実験に参画。

・平成２４年度：５回　パナソニックとの連携（大阪市、奈良市）

前年実績を踏まえ継続実施した。

・平成２５年度：１回（奈良市）

・平成２６年度：１回（京都市）

（３）会員増強

① 一般参加呼びかけ型「おためし企画」の実施：各年４回実施し会員獲得に努めた。

② イベント連動型会員募集

他団体が実施するセミナー、展示会、講演会等でのブース活用などを通して会員募集を行った。

・平成２４年度：近鉄百貨店において長谷川義史原画展など

・平成２５年度：大阪（なにわ）の歴史を「船場」から探る（産経新聞共催）など

・平成２６年度：大阪府立中央図書館講演会など

③ 会員増強キャンペーン

講演会の実施ともあわせ、入会金無料キャンペーンを展開した。

（１１月～２、３月）

会員企業のＯＢ会にて歴史街道倶楽部をＰＲし、会員獲得につなげた。

④ 会員維持

・お友だち紹介キャンペーンの実施

・家族会員無料キャンペーンの実施

・自動引き落としキャンペーンの実施

・未継続会員への更新案内再送（毎月）

（４）ＰＲ

基幹媒体の内容の充実・デジタルシニアへの対応強化。歴史街道倶楽部が実施する講演会やイベントへの参加を会員企業・団体に呼びかけ、福利厚生として社員・職員の教養と健康の増進に役立ててもらうなど会員化による歴史街道倶楽部の活用を推進した。

① 協議会会員団体と連携したイベントや相互ＰＲ

② イントラネット等、協議会会員団体の社内発信機能を活用したＰＲ

③ ホームページにおける情報提供

④ 『歴史の旅人』の発行：内容の充実を図り春、夏、秋、冬の年４回発行。平成２６年春号においては、歴史街道倶楽部２０周年関連記事を盛り込んだ。

⑤ 『歴史の旅人』表紙絵１３枚に解説を加え「絵葉書帳」とし、新規入会者への特典やＰＲ媒体として活用した。

（５）体制

① ボランティアスタッフ

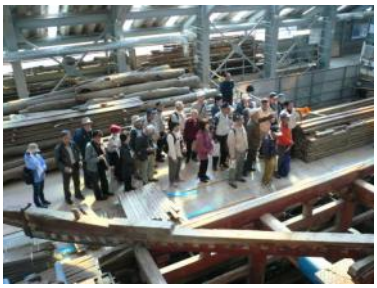
スタッフ募集を随時行い、歴史街道倶楽部運営への積極的参画とボランティアスタッフが独自に運営する「フォーラム活動」等を通じて、口コミによるＰＲ活動を展開。ボランティアスタッフ会議の年４回の定例開催（会員誌の編集企画、イベント企画、歴史街道倶楽部運営等の検討）に加え、テーマ別会議を開催した。特に、平成２５年度の一般参加型イベントや平成２６年度の２０周年記念会員交流会では、全員参加で企画、運営に携わることにより、倶楽部への参加意識が高まった。

② イベントの企画に際しては、協議会会員自治体と連携を図った。

歴史のまちウォーク

非公開文化財見学

歴史講演会



文化財修復見学

五感で体感！にほん文化シリーズの実施

伝統芸能鑑賞

イベント連動型会員募集

会員増強の取組

海外特別企画

歴史街道倶楽部　２０周年記念「会員交流会」

会員誌「歴史の旅人」

第２章　歴史文化を活かした余暇づくり

余暇づくり事業の目的

日本文化の本質を伝えるという協議会の目標達成に向けメインルートエリアとネットワークエリアを相互補完的に機能させ、地域の魅力を深めていくために一層の連携を図りつつ、新たな余暇の提案、事業を行う。

１．メインルートにおける余暇づくり

歴史街道計画の基本理念にのっとり、「歴史街道コンセプトの浸透」として、第６期で着手した新規事業の手法をメインルートで展開し、歴史街道の醍醐味づくり、ツアー展開の積極的展開および情報発信ツールの開発・強化に取り組んだ。

（１）第６期で着手した新規事業の手法をメインルートで展開

① 平成２４年度は、「歴史街道めぐり」をメインテーマに、サブテーマに「平清盛」を取り上げ、「源平」縁りの地を巡る歴史街道ウォークを実施した。１０回のイベントを実施し、８，１４４名の参加を得た。

② 平成２５年度は、５私鉄に共通するサブテーマとして「駅から歩く歴史のロマン」をキャッチフレーズに、各社それぞれ自慢の駅をアピールし、駅を基点に、あるいは駅に因んだところを散策するウオークイベントを実施し、７，１９０名の参加を得た。

③ 平成２６年度は関西５私鉄沿線の文化・歴史資源を素材に、スタンプラリーとビンゴの要素を組み合わせた新企画「ＢＩＮＧＯ　ｄｅ　ラリー」を実施した。

(a)期　　間　　平成２６年６月１日～７月１３日
(b)応募者数　　５４８名（推計）
(c)参加人員　３，６３５名
(d)賞品当選者数　１６２名

④ 歴史街道推進事業の基本コンセプトである伊勢から飛鳥、奈良、京都、大阪、神戸の歴史街道の現場を時代の順番にたどる旅を開発するために歴史街道倶楽部と会員企業などの協力により、２泊３日でたどる「一筆書の旅」を試行した。

(a)平成２４年度　　神戸～伊勢（９月２９日～１０月１日）
　　神戸市、大阪市、京都市、奈良市、伊勢市
(b)平成２５年度　　伊勢～神戸（３月７日～３月９日）
　　伊勢市、明日香村、奈良市、京都市、大阪市、神戸市
(c)平成２６年度　　伊勢～神戸（２月２８日～３月２日）
　　伊勢市、奈良市、斑鳩町、宇治市、京都市、大阪市、
　　神戸市

（２）歴史街道の醍醐味づくり

① ストーリーづくりの強化：飛鳥～奈良～京都地域連携事業および西国街道連携事業において、複数の自治体をまたぐ統一テーマでストーリーを検討し、リレー現地講座、講演会、リレーウォーク等を継続的に実施しており、第７期計画期間中に参加自治・団体等も増加し大きな手応えを得ることができた。

＜飛鳥－奈良－京都地域連携事業＞

年　度	テーマ（現地講座回数）	参加人数
平成２４～２５年度	古のみやこが紡ぐものがたり（６回）	３９９人
平成２５～２６年度	中世　その時代のうねりのなかで（７回）	３０７人

＜西国街道連携事業＞

年　度	講演会	ウォークラリーの回数	参加人数
平成２４年度	（なし）	１４回	３００人以上
平成２５年度	時代でつなぐ西国街道 ～古代・中世・近世～	８回	６１０人
平成２６年度	西国街道 ～つながるローカル街道の魅力～	８回	３３７人

② コンテンツ開発：イベントの実績、成果をコンテンツとして活用できるよう編集し、ツアーとして実施した。具体的には、京阪電鉄の広報誌に掲載されたコラム「歴史街道を訪ねて」の題材を訪ねるシリーズとして、京街道の魅力を紹介した。

＜実施したイベント＞

京阪沿線歴史ウォーク

「枚方～牧野」、「鳥羽街道～東福寺」、「寝屋川～門真へ」など。

（３）ツアー開発の積極的推進

① 事業パートナーとのツアー造成：クラブツーリズムのエコースタッフを対象に歴史街道倶楽部の協力を得てモニターツアーを開発し、これまでの旅行商品とは一味違う、歴史街道ならではの旅行を提案する商品を提供した。

＜実施したイベント＞

観桜と宝塚歌劇の魅力、三木合戦の舞台で歴史を学ぶウォーキング、
女性鵜匠の鵜飼体験と茶そば、纏向遺跡とソーメン体験など。

２．ネットワークエリア事業における余暇づくり

（１）関西の広域的魅力整理と活用

－「北近畿・琵琶湖」「紀伊半島」「中央部」に分けた、連携事業の推進

協議会では長い間、南北エリアを含めた近畿の魅力をどう表現していくか、またそれぞれのエリアでどう県境を越えた連携を形にしていくかについて、試行錯誤してきた。第７期計画において試行した「近畿を南北３つに分けた地域連携」はそれらへの最も有効な回答の１つと考える。

第７期計画では南北のエリアにおいて「各界の叡智結集」「具体的指針の明確化」への取り組みが始まった。

南エリアは「全国の歴史ファンをメインターゲット」に世界遺産登録されている「“紀伊山地の霊場と参詣道”３県にわたる官民連携」を目指し、北エリアは「京阪神をメインターゲット」に「環状高速道に沿った“食と歴史の回廊”としての連携」を目指す。

① 紀伊半島エリア

(a) 地域づくり関連

田辺市（本宮地区・口熊野地区）、橋本市、新宮市、那智勝浦町、高野町、紀の川大和街道地区、吉野町、橋本市、西熊野街道周辺地区（五條市、天川村、十津川村、野迫川村）、吉野町において「歴史街道モデル事業」計画が策定され、整備事業などが進められてきた。

これらのフォローアップに加え、「世界文化遺産」地域連携会議とのコラボで台風被害からの復興、また「世界遺産特別法」制定や、東京五輪に向けた「新幹線×世界遺産によるインバウンド促進」などに関する要望活動への協力を行った（以外の世界文化遺産地域＝京都・大津・宇治・奈良・斑鳩・姫路にも共通）。

(b) 紀伊半島交流会議の再興

北近畿・琵琶湖同様、第７期計画において世界遺産登録１０周年（平成２６年）を機に、ゆるやかな連携組織づくりに取り組んだ。

世界遺産登録を前に協議会が事務局となり「紀伊半島交流会議」が結成されたが、世代交代やＩＴ普及などの変化を踏まえ、それがリニューアルされた形である。

(c) 広域パンフレットの作成

紀伊半島では各地情報の発信は一定水準以上だが、全体としての魅力発信が不足している。

３県すべてを紹介するパンフレットがほとんどないという現状を解消するために、紀伊半島の広域パンフレットを作成した。

様々な歴史資源があり、分かりやすい資源整理やコース設定などに課題は残し

ているが、これにより「北近畿・琵琶湖」「中央部の世界遺産」「紀伊半島」と、近畿を南北に分けた３部作の広域パンフレットができた。

(d) シンポジウム

同じく紀伊半島全体の情報発信を意図し、金峯山寺・金剛峯寺・熊野本宮など宗教関係者からなる「紀伊山地三霊場会議」などとのコラボによるシンポジウムを、東京・大阪にて４回にわたり開催した。

以外にも高野山における世界遺産サミット（和歌山県主催：平成２６年９月）の事業への協力、平成２７年の「世界遺産サミット」（観光庁・「世界文化遺産」地域連携会議など主催）の和歌山県誘致に関する協力などを行った。

(e) メディアとの関係強化

メディアとの関係強化をめざし、平成２４年度、２６年度に東京（新宮市・田辺市・那智勝浦町・高野町・吉野町・東紀州地域開発公社）、平成２５年度には名古屋へのメディア訪問（那智勝浦町・吉野町）を実施した。

東京での訪問先はＴＢＳ（世界ふしぎ発見）、日本テレビ（遠くへ行きたい）、テレビ大阪東京支社（和風総本家）、ダイヤモンドビック社（地球の歩き方）、交通新聞社（旅の手帖ほか）、ＰＨＰ研究所（月刊歴史街道）、ＫＫベストセラーズ（一個人、歴史人）、旅行読売出版社、フォーリン・プレスセンター。名古屋では中日新聞、読売新聞、毎日新聞、テレビ東海、東海ラジオ、ＺＩＰＦＭ、東海ウォーカー、中日ショッパーズなどを訪問した。

(f) 展示会活動等

「世界文化遺産」域連携会議とのコラボで、以下のような展示活動に協力した。

- 関西国際空港、大阪駅・新大阪駅・天王寺駅・京都駅・三宮駅におけるＰＲ（平成２４年ユネスコ条約４０周年国際会議時：５９スクリーン）
- 世界遺産地図展（平成２５年・京都駅ポルタ：入場１０万人）
- 海外でのパネル展示（平成２４年～：ボストン、ソウル、釜山、香港、北京）

(g) その他情報発信活動

月刊「歴史街道」、朝日放送における「高野山開創１２００年特別番組」、ケーブルＴＶ連携番組などにおいて情報発信が行われた。

(h) ツアー等

歴史街道倶楽部ツアー「熊野古道　伊勢路　始神峠を越えて熊野三山へ」が実施されたほか、高野山開創１２００年に関連し、高野街道にぎわい再発見プロジェクト実行委員会、南海電鉄主催のウォーク・イベント（２０回）への協力などを行なった。

② 北近畿・琵琶湖エリア

北近畿・琵琶湖は数々の歴史の場所（古代丹後王国・安土城・彦根城・竹田城など）を有し、また各地域は古代から都に海の幸、山の幸を供給してきた「和食」のふるさとでもある。

協議会では数年前より「丹後・但馬連携会議」を結成し、また平成２４年度には大阪にてシンポジウム「歴史・文化・自然－北近畿の魅力発信」を開催するなど、このエリアの連携に取り組んできた。

そして平成２６年夏、近江・若狭・丹後・但馬・丹波と京阪間が環状に結ぶ「環状高速道路」が開通。これを千載一遇のチャンスと捉え、第７期計画では以下のような事業をスタートさせた。

(a) 地域づくり関連

現地では「環状高速道路」に沿い彦根市、南越前市（南城地区）、京丹後市、口丹後地区（与謝野町・福知山市大江地区）、朝来市（和田山地区）、豊岡市（出石地区）、篠山市、高槻市、乙訓・八幡地区（大山崎町・長岡京市）、大津市、近江八幡市などで「歴史街道モデル事業」計画が策定され、整備事業などが進められてきた。

これに加え高速道路開通を機に、各地域の官民からなるゆるやかな連携会議が結成された。

(b) 全体資料の作成

初期事業として、北近畿・琵琶湖パンフレットを大幅改訂し、全体を１４の１日コースと５泊６日からなるモデルコースにまとめるなど、資源の整理・編集に取り組んだ。

(c) メディアとの関係づくり

名古屋へのメディア訪問（京丹後市・豊岡市）を平成２４年度に実施。高速道路開通後の平成２６年度には大阪でも同種事業（福井県・舞鶴市・朝来市・京丹後市観光協会・北近畿タンゴ鉄道・輪の国びわこ協議会：大阪経済記者クラブ、朝日放送、毎日放送、テレビ大阪）を実施した。

③ 中央部エリア（メインルート事業を除く）

(a) 世界遺産地域（京都・姫路・斑鳩・奈良・宇治・紀伊山地）への協力

世界文化遺産に直接関係する歴史街道の場所は近畿６府県の３０市町村、また約３０の歴史資源（寺社・城郭・古道など）におよぶ。また協議会が全国的な連携を積極的にリードし、様々な共同事業を展開していくことの意義には大変大きなものがある。

第７期計画では世界遺産特別法の研究・要望などに加え、姫路城、法隆寺の世界遺産登録２０周年、奈良の同１５周年（平成２５年）、京都・大津・宇治の同２０周年、紀伊山地の霊場と参詣道の１０周年（平成２６年）、ならびにユネスコ世界遺産条約最終会合（平成２４年）等、記念事業への協力を行った。

・ ユネスコ世界遺産条約４０周年最終会合（平成２４年：ユネスコ主催：京都）への協力ＰＲ
・ 姫路・斑鳩（登録２０周年）記念シンポジウムへの協力（平成２５年：姫路）
・ 登録記念地域によるシンポジウム・東京メディア訪問（平成２５年度：姫路・斑鳩・奈良、平成２６年：京都・大津・宇治・高野）
・ 京都駅地下街ポルタ「世界遺産地図展」（平成２５年：国土地理院主催・国際地図学会関連イベント：入場１０万人）への協力
・ 世界遺産市町村サミット（平成２６年：京都市・観光庁・「世界文化遺産」地域連携会議主催：ユネスコ前事務局長、観光庁長官、文化庁文化財部長、世界遺産を持つ全国の２１市町村長など参加）への協力
・ 京都・世界遺産登録２０周年記念　アートアクアリウム城（平成２６年：二条城：入場２９万人：収入の１０％・４千万円弱が二条城修復などに寄付）への協力）

(b)南大阪

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録推進、竹内街道１４００年事業への協力などを実施した。

・ 百舌鳥・古市古墳群、世界遺産登録への協力
　有識者会議、民間会議（委員・副会長）
　ユネスコ世界遺産会議等にあわせたＰＲ（関西空港・京阪神各駅、第一回「世界遺産サミット」）
・ 竹内街道１４００年事業への協力
　ＡＢＣ「歴史街道スペシャル 悠久の竹内街道」
　竹内街道シンポジウム（於・太子町）への協力
　竹内街道ＭＡＰの制作
　ウォーク・イベント
　歴史街道倶楽部会員誌「歴史の旅人」における特集
・ イベントの実施
　堺市、羽曳野市、葛城市連携セミナー＆ウォーク
　体験企画の定例化（堺・てつの秘密を探る：平成２４年度～）

(c)播磨

・ ひめじ官兵衛プロジェクトへの参画に加え、周辺地域（赤穂・三木）を含んだツアーなどを実施した。

五私鉄連携事業・ウォーク

五私鉄連携事業・ビンゴ de ラリー

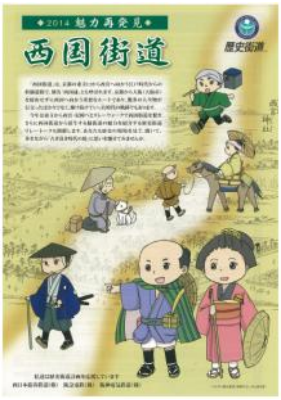
一筆書ツアーの実施

飛鳥～奈良～京都連携　　講演会＆ウォーク

地元の食材を PR

WEB での PR

Facebook での PR



京都～大阪～神戸連携

西国街道連携事業：マップ

連携事業・講演会

リレーウォーク

京街道連携事業

勉強会・現地視察

連携会議

北近畿・パンフレット作成

マスコミ訪問（名古屋）

広報成果MBS

「ちちんぷいぷい」（越前ガニ）

北近畿連携会議

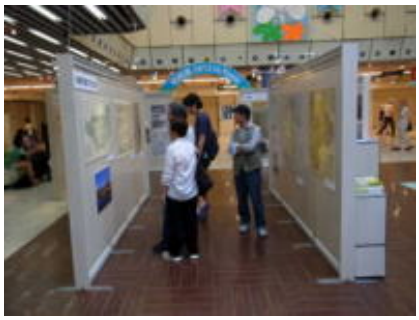
紀伊半島連携・パンフレット

名古屋メディア訪問

要望活動

広報ＰＲ（駅でのサイネージ）

世界遺産連携会議との連携・世界遺産サミット、イベント実施



展示ＰＲ

首都圏マスコミ訪問

広報ＰＲ

第３章　歴史文化を活かした地域づくり

地域づくり事業の目的

地域間、地域と協議会が協働し、連携を深めて、あわせて地域ポテンシャル（ソフト、ハードの地域環境整備、人づくり、広域ネットワークの整備、情報発信拠点の整備）を高め、地域の活性化を図ることを目的とする。メインルート事業とネットワーク事業とは、相互補完的に機能を維持させていくため一層の事業連携を図り、日本文化の本質を国の内外に伝えるという協議会の目的達成に向け、歴史文化を活かした地域づくりを推進する。

１．メインルート事業

（１）広域官民連携事業の推進

① 伊勢～飛鳥間事業

伊勢商工会議所や曽爾村等と「伊勢街道交流フォーラム」等や沿線各地のボランティアガイド団体の相互見学会、意見交換を実施。また、街道の案内看板やマップを作成した。

② 飛鳥～奈良～京都間事業

複数の自治体をまたぐ統一テーマでストーリーを検討し、リレー現地講座において実践し、自治体単体の取り組みでは実施できない、広域連携ならではの内容を会議で模索した。

③ 万葉まほろばプロジェクト

ＪＲ万葉まほろば線の駅をテーマに、ＪＲ西日本と天理市で地域づくりに資する連携事業を実施した。

④ 京都～大阪～神戸間事業

西国街道連携事業として複数の自治体をまたぐ統一テーマでストーリーを検討し講演会・リレーウォークを実施した。

新たに京街道・淀川左岸地域連携事業を立ち上げた。

（２）歴史的風景を活かした魅力づくり

日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会等との連携を図りつつ事業を実施

① 平成２４年度　伊勢街道交流フォーラム（津市）

・伊勢本街道「わらじ de ウォーク」（御杖村）他

② 平成２５年度　伊勢街道交流フォーラム（曽爾村）

・伊勢本街道ウォーク（桜井市、曽爾村、御杖村）他

③ 平成２６年度　伊勢街道交流フォーラム（伊勢市）、

・「おかげ参りフォーラム」（伊勢市）、伊勢本街道ウォーク（宇陀市）他

④ 平成２４～２６年度　　伊勢街道に残る歴史資源の発掘、

・案内看板の設置、常夜灯ライトアップ等

（３）歴史街道応援団ネットワークの構築

連携事業を実施している１６の観光ガイドボランティアに平成２６年度に、活動の現状や課題等についてヒアリングを実施した。

（４）歴史街道の拠点整備とその活用

歴史街道ｉセンターについては、新たに２カ所加わり合計４２カ所となった。

（平成２６年度新規加入：歴史に憩う橿原市博物館、三木市観光協会）。

（５）第７期計画における成果

① 協議会がこれまでに蓄積した情報や５私鉄各社との連携協力により、参加者が自主的に沿線を回るしくみを「ＢＩＮＧＯ　ｄｅ　ラリー」として新たに構築できた。

② 歴史街道一筆書きツアーの試行に対し、参加者の評価は高く、確かな手応えを得ることができた。

③ 飛鳥～奈良～京都および西国街道の両連携事業について、地域づくりを意識したテーマを決め、リレー現地講座、リレーウォーク、講演会など具体的に展開できた。

④ 自治体との連携事業においては、新たなテーマの設定により、従来とは異なるコンテンツを開発できた。

⑤ クラブツーリズムのスタッフや歴史街道倶楽部の協力によりこれまでの旅行商品とは一味違う、歴史街道ならではの旅を開発し、提供することができた。

２．ネットワーク事業：近畿全体の底上げを目指して

（１）歴史街道モデル事業のフォローアップ

関西全域を対象に協議会が実施してきた事業の代表例に「歴史街道モデル事業（５０地区）」がある。対象となった地域ごとに、国・府県・市町村・民間事業者（まちづくり組織・商店街・交通機関など）が集い、地域ならではの「歴史（まちづくり）テーマ」を定めるとともに、役割を分担して「特徴ある歴史的地域づくり」を進めるというもので、新しい歴史的地域づくりの事業ノウハウを積極的に開発していくことも含め、その後の国の制度づくりなどにも大きな貢献をしてきた。

この分野ではまだ事業実施中の地域が数多く残っており、協議会では国への働きかけを継続し、その実現を支援した。

（２）メインルートの事業成果を面的に展開

第６期計画において北近畿、紀伊山地を加えた１００カ所の観光案内所ネットワークが完成。各地域の観光情報をファイリングし閲覧できる仕組みができた。

第７期初年度には各所にラックを設置、紀伊山地パンフの制作とあわせ南・北・中央エリア３種類の設置体制ができた。

（３）南北近畿における歴史観光地域づくりリーダーのネットワーク形成

北近畿・琵琶湖エリアと紀伊半島エリアは地域相互の交通に恵まれず、活動の共有や府県境を越えそれらを繋ぐ仕組み作りが課題となっていた。

そこで、できるだけ多くの関係者からの知恵やアイデアを集め、それを関係者・外部者の協力を得て形にしていくための日常的な情報交換の場としてメーリングリスト（北近畿・琵琶湖６７名、紀伊山地６５名）を立ち上げた。

南北近畿の振興という面で、これまでなかなか集まれなかった１３２名の実践者が、日常的に交流できるインフラを基盤に、今後はアイデアを取りまとめた上で、方向性を持った提案を仕掛け、協議会事業の充実と観光客のパイの拡大に地域とともに取り組んでいく。

（４）着地型観光（ＤＭＣ）の推進

地域自らが自らの魅力に気づき情報発信や集客を行うといった分野を開拓するため、着地型観光事業者との連携を強め、できる所から「地域主導」に変えていく取り組みを始めた。

平成２４年度に「着地型観光と関西の地域づくりの未来」シンポジウム（日本観光振興協会、観光まちづくりプラットフォーム推進機構共催：地域リーダー２００名参加）を開催。それをきっかけにして平成２５年度からはＮＰＯ北近畿みらいとの実験（年間１５程度のメニューを地元が準備し協議会が集客協力）が始まり、これらが南北エリアにおける人材のネットワーク形成へとつながった。

（５）風景街道事業等の推進

歴史街道推進協議会が関連する「風景街道」事業には「琵琶湖・中山道」「伊勢街道」「まほろば」の３つがある。このうち事務局を務める「琵琶湖・中山道」においては以下のような事業を実施した。

① 「近江路中山道」マップの作成・配布

② ＷＥＢページ「自転車で旅する歴史街道」において中山道コースを紹介

③ 展示ＰＲの実施

・中山道近江路パネル展（守山・うの家）、滋賀県内の道の駅（４カ所）での展示、サイクルモード（自転車観光見本市）ほか

④ サイクルツーリズムシンポジウムの開催（大津市２回、長浜市１回）

⑤ 輪の国びわ湖推進協議会との協働

・びわ湖ロングライドへの企画、実施協力　など

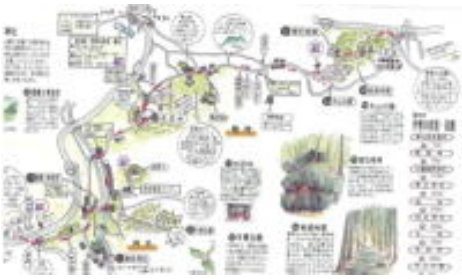
⑥ 近江歴史回廊推進協議会への協力

・第１７回近江歴史回廊大学募集 、「クーポンブック近江東海道冬の歩き旅」（近江東海道部会）、モニターツアー「早春の琵琶湖の船旅」（湖西湖辺の道部会）

ボランティアガイドとの連携

伊勢街道連携・フォーラム

案内表示の整備



マップの作成

竹内街道連携・マップ

講座＆ウォーク

風景街道：琵琶湖さざなみ街道・中山道・シンポジウム

道の駅での展示

各地のイベントへ出展 PR

第４章　協議会運営

１．会議体の運営

（１）事業計画の決定・承認を諮るため、「総会」および「理事会」を各年度１回開催した。
（２）理事会に提出する議案の審議を諮る「幹事会」を各年度１回開催した。
（３）会員団体等に各年度事業の進捗状況等を説明する「全体会議」を、各年度３回開催。全体会議では会員団体への情報提供の場として「勉強会」を各年度２回から３回開催した。
（４）平成２６年度の会員総会において会議体の位置づけを明確にした。
（５）専門部会は必要に応じて開催した。特に、平成２６年度では「第８期計画」を検討するための専門部会を３回開催し、第８期計画（案）を取りまとめた。
（６）会員団体間の情報交換、ノウハウの共有を目的に、「歴史街道」関連地域で実施されている先進事例等を見学する「現地見学会」は、各年度１回開催した。

２．要望提案活動

（１）国、自治体、企業等会員団体に働きかけ、諸々の委員会や諮問に応じる等様々な手法を通じて歴史街道計画の推進に必要な連携事業や企画提案型の事業提案を行った。
（２）関連事業について省庁関係者に送付したほか、講演会の参加などを通じて協議会の理念、取り組みを理解していただく機会を設けた。
（３）受託事業については、関係官庁等への働きかけや提案活動を行った結果、「平成２４年度官民連携主体による地域づくり推進事業」に採択された。
平成２５年度と２６年度ではいくつかの公募案件に応募したが採択されなかった。

３．事業収支の安定化

（１）事業収支の安定化は協議会運営の中での最重要項目として捉え、活動を行ってきた。
（２）第７期計画以前の収支状況は、第３期計画の後半から第４期計画にかけて収支のバランスがとれていなかったが、第５期計画以降は収支の改善を見て堅調に推移している。
（３）第７期計画では、大阪府の意向により事務局事務所の移転を行い、これに伴う移転費用や家賃の増加で単年度収支がマイナスとなったが、経費節減等の努力により、協議会運営に関わる事業費に影響はしていない。（図１）
（４）繰越金については、第３期計画の後半から第４期計画にかけてマイナスになっていたが、第５期計画以降は、公認会計士及び監事の指導により、年度当初から会費など

の収入が入金されるまでの事業費として必要な金額として４，０００万円前後を維持している。（図２）

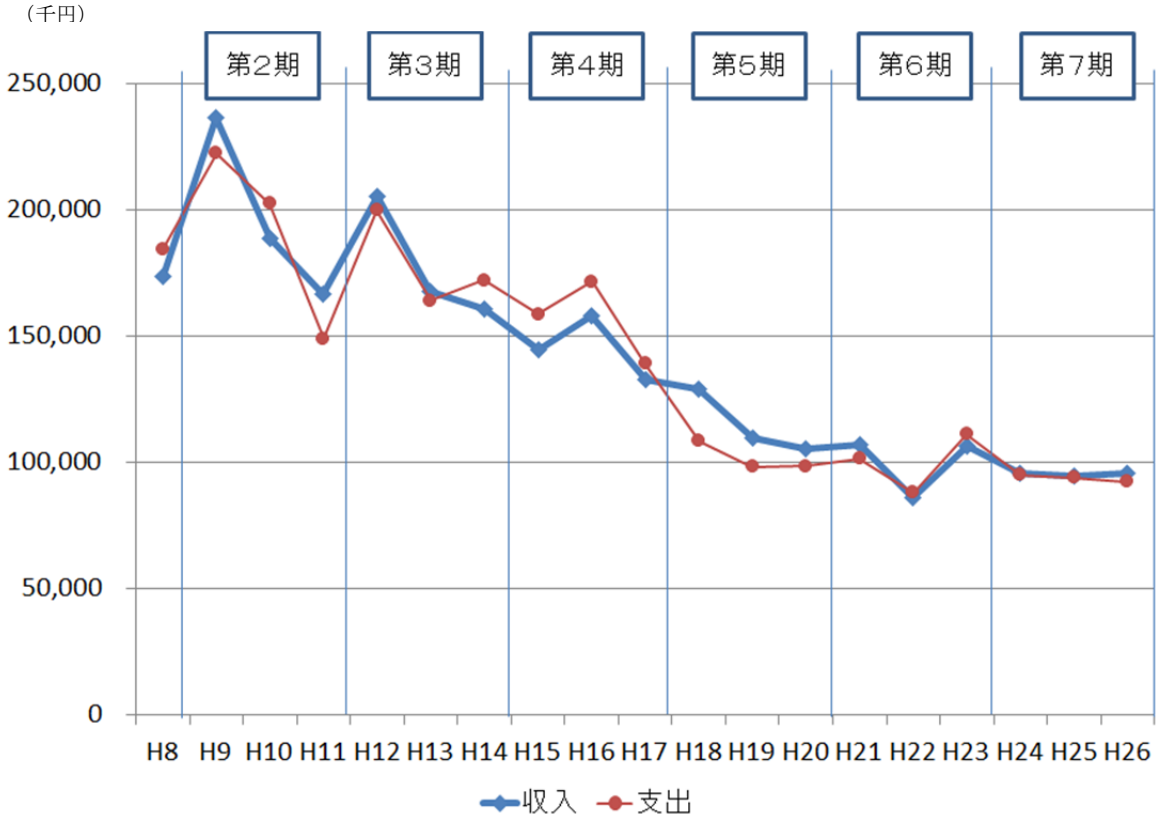
（５）運営資金の推移については、長期の傾向として、国、府県市町村等行政からの資金が減少する一方、民間からの資金は、第５期計画以降回復している。今後、安定的に事業を実施するため、会員団体の獲得などの改善が必要である。（図３）

理事会・総会

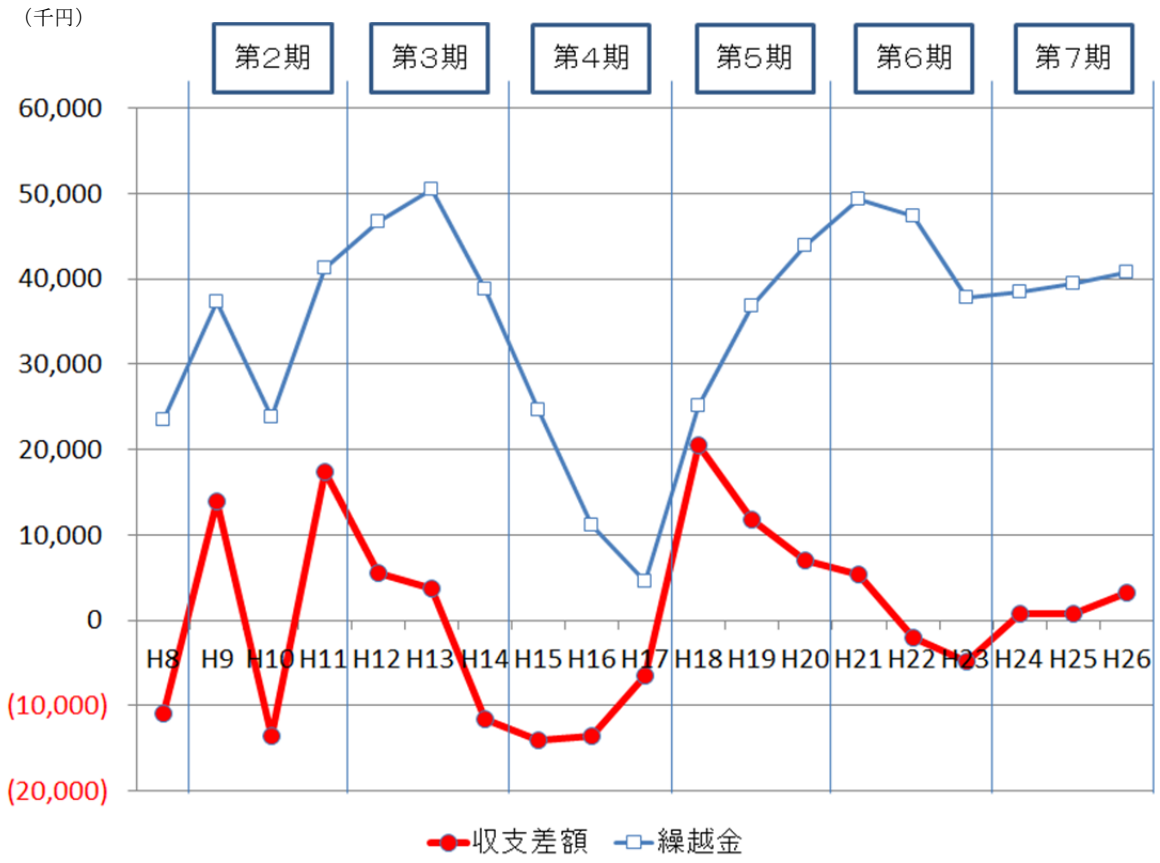
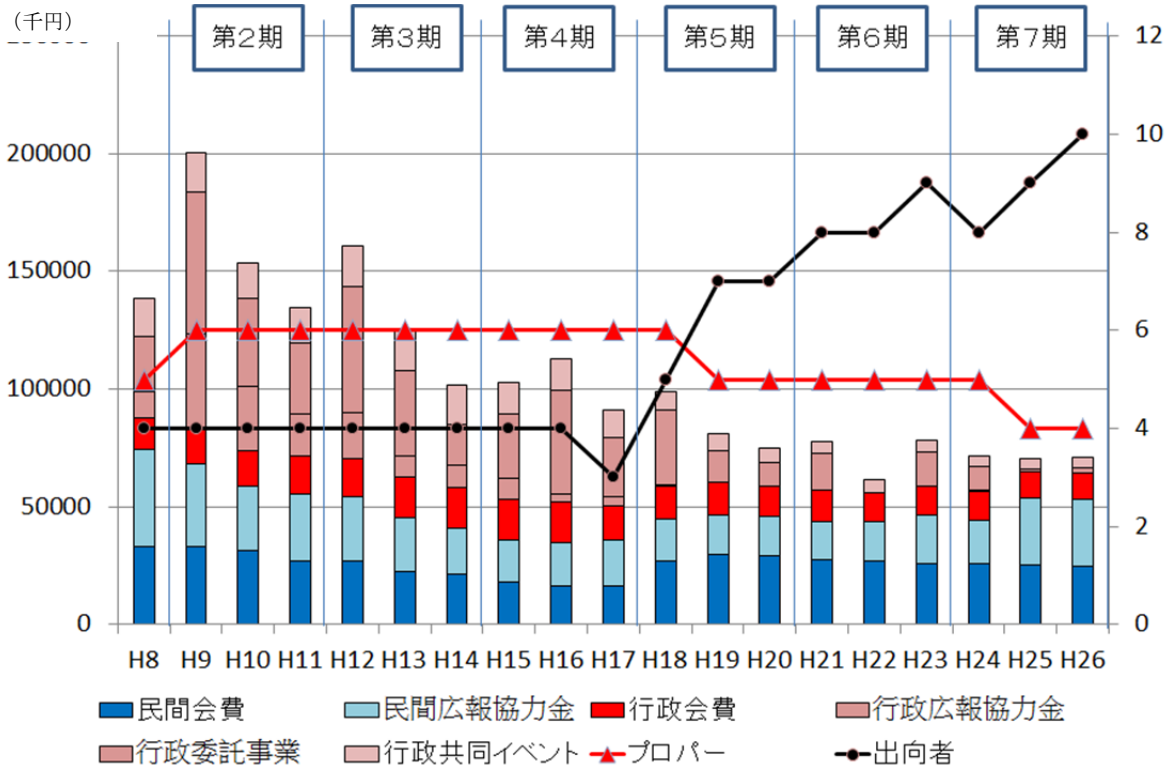
全体会議・勉強会

現地見学会

（図１）事業費（収入、支出）の推移



（図２）収支差額と繰越金の推移



（図３）運営資金の推移